

※「(1) 審議の内容」における記号の説明

「○」…委員の発言

「◎」…委員の質問に対する事務局の回答

第2回小中学校特別教室空調整備事業における 浜松市 PFI 等審査委員会会議録

- 1 開催日時 令和6年1月31日(水) 午後2時40分から午後5時00分
- 2 開催場所 イーステージ浜松オフィス棟6階教育委員会室
- 3 出席状況 出席委員 奥宮 正哉(名古屋産業科学研究所 上席研究員)
鍋島 佑基(静岡理科大学 准教授)
永野 涼子(静岡県弁護士会 弁護士)
奥家 章夫(浜松市学校教育部長)
須部 保之(浜松市財務部次長)
- 事務局 山本課長、松本課長補佐、稲垣グループ長、増田主任

4 傍聴者 0人

5 議題、内容及び結果 審議の内容

(1) 開会

奥宮委員長が到着されるまで、奥家副委員長が代理で進行を務める。

本会議は、特定の者に不当な利益または不利益を与えると認められる情報を含むため、「浜松市附属機関の会議の公開に関する要綱」第3条第1項に基づき、会議を非公開にする旨を説明し、了承される。

(2) 事務局説明

前回委員会振り返りと今回委員会の議事内容を説明。

前回委員会でご指摘いただいた内容を踏まえ、実施方針及び要求水準書(案)を修正し、11月17日に実施方針及び要求水準書(案)を公表した。その後、事業者7社より計45項目の質問を受け付け、回答を公表した。事業者から受け付けた質問は、主に公募資料の確認に関する内容であった。

(質問)

○質問回答の作成及び公表は、事務局で対応されたという認識でよいか。

◎お見込みのとおりである。

(3) 審議の内容

奥宮委員長が到着されたので、進行を奥宮委員長にお戻しする。

(事務局)

委員 5 名全員が会議に参加しているため、本会議は「浜松市附属機関の会議の公開に関する要綱」に基づき成立しているとする。議事の確認は、奥宮委員長と奥家副委員長にお願いする。

議事 1 特定事業の選定について

(質問)

○事業期間の設定根拠は何か。

◎エアコンの耐用年数は 13 年間であるため、約 2 年間の設計・施工の中間点から維持管理期間を 13 年間とし、計 14 年と設定している。

○維持管理の開始時期は学校ごとに異なるが、切りのいい数値ではなく、14 年間と設定したということか。

◎普通教室の際は、維持管理期間を全校 13 年間としており、学校によっては維持管理期間が 12 年間になる学校もあったが、市としては平均 13 年間の維持管理にしたいと、また、事業者を確認したところ、あと 1 年延ばしても問題ないという意見があったため、今回は 14 年間と設定している。

議事 2 落札者決定基準について

(意見)

○価格点と性能点の割合について、採点するにあたってはイレギュラーなことが起きることも検討が必要である。例えば、意欲的に取り組む内容が提案された場合に性能審査で 400 点付けても、コストが一番低い提案が価格点 500 点となり、その提案と比べてコストが倍の提案であれば価格点が 250 点になるとすると、性能審査点の重みが変わってしまうことが懸念される。性能とコストのバランスを踏まえた企業だけでなく、安さだけで提案してくる企業がいた場合、性能点が高い企業よりも価格だけを低くした企業のほうが、逆転することが想定される。安かろう悪かろうの提案を過大評価することが懸念される。

◎品質の確保という点では、要求水準書にて満たすべき基準は示し、省エネ性能では超高効率仕様の機器を用いることを求めていることから、市が求めるものは要求水準書で確認できると考えている。

○機器自体の性能はそこまで変わらず、数字に出てこない性能も考えられる。エネルギー消費もピーク時で考えると、差が出ないと考える。提案がよくてもコストで逆転することを考えると、提案の評価が薄まらないかが懸念される。

○金額のズレがどれくらいあるかによるかと思うが、倍の差がつくこともあるのか。

○想定であるが、この業務は請け負うにあたりギリギリの金額と考える。低い金額での提案もあり得るが、このご時世を考えると難しく、逆転するほどの差はないのではないかと考える。

- ライフサイクルコストの算定方法は提示されるのか。
- ◎要求水準書等で示す条件（学校ごとの稼働時間等）を提示し、それを踏まえて算出させる形としている。
- 100%能力の性能はさほど変わらないが、7割の能力で運転する場合の性能はコントロール等の工夫で差が出る部分があるかと思う。それが反映できるような評価形式になっているのかが懸念される点と考える。提案する機器の性能で評価できるとよい。
- ◎提案書の中で、コスト削減の具体的な提案がなされると良いと考える。機器ごとに条件を自由に設定できる形とすると、並べて判断するのは難しくなると考える。
- イニシャルコストは100円高くなるが、活用方法次第で効率よくライフサイクルコストを下げられるという提案も考えられる。総合評価の場合、提案と価格の割合は必ず議論になるところである。PFI事業は、コストも重視される場所である。
- ◎学校空調整備事業に係るPFI事業では、ほとんどの事例が50:50の割合である。
- PFI事業では、足切りを設けることも考えられる。
- ◎今のところは、要求水準を満たすことが足切りと考えており、性能評価はそれに加えての加点と考えており、足切りは設定しないこととしている。すべての項目で最低評価のEがつけられた場合、100点となるので100点が最低点という想定である。

- 特定事業の選定にて、VFM 5.29の削減は期待されるとあるが、提案はこれに近似した金額となるのか。
- ◎価格評価の前に入札価格の確認を行うが、契約上限価格はVFM 5.29を見込んだ（削減した）金額となっており、VFM 5.29の削減を見込んだ金額で提案される想定である。
- それは維持管理も含めた金額か。
- ◎お見込みのとおりである。

- ライフサイクルコストは、仮定の条件を与えたうえで、試算される。市としては、7月は7割程度の出力で実施できるだろうという想定で条件を提示しているかと思うが、要求水準書では「夏場は何℃に設定すること。」としており、それを実現するため（その温度を設定するため）、どの程度の出力をし、エネルギー消費量がいくらかかるか、事業費はいくらになるかが事業者の提案になるのではないか。
- 7月に何℃に設定するかという条件ではなく、そのために7月はどの程度の出力が必要であるという条件が与えられ、それに対してどの程度の能力の機器を導入し、どの程度の割合で運転するかを提案させる必要がある。

- ライフサイクルコストは、入札価格とは別に提示させるのか。事業者ごとにばらつきが出てくるところかと考えるが、その正解をどのように確認するかが懸念される。
- ◎その正解を確認するには設計までの実施が必要な部分であり、仮定の条件を与えて算出させることを想定している。

- ライフサイクルコストの算出はツール等がベースになるかと思うが、それに対して、どのようなアプローチをするとどう下がるかを、段階的な提案をさせる形とすれば、よりコストを下げた提案もさせられる。負荷自体は変わらないが、その負荷をどのように処理するか提案も受け付けられる。
- どのような形式でエネルギー消費量を算出するのか。
- ◎（様式の説明）
- 負荷率は、設定された機器能力で算出されるのか。
- ◎要求水準書で設定している月別の負荷率を入れることになる。
- 機器の効率は選定した機器によるのか。負荷率を決められると事業者の提案の幅が狭まる。機器のピーク能力で負荷率が決まるので、負荷率が決まっていると入れられるものは限られてくる。その枠を外して、自由な提案を求められるようになれば、広く提案を求められよいかと思う。
- 総合評価とするにあたり、提案の余地がどこにあるのかが懸念される場所である。
- エネルギー使用が常に最適解であることが示せないライフサイクルコストは示せないと考える。研究に近い内容となっており、どこまで簡潔化して事業者に伝えるのかは難しいところである。
- ◎ご指摘内容を踏まえて、検討する。
- どこまで提案させるかは別として、考え方としては、7月ほどの程度の能力が必要かを提示し、それに対してどの程度の機器を入れるか、またそれに対して負荷率がどの程度かという点は事業者提案させる（自由度をもたせる）。また、機器として100%のときの効率と、50%のときの効率は機器によって違うため、その点での工夫を提案させる。機器の能力はそれぞれのメーカーによって違うので、特性調整等も含めて提案させる。
- 様式9-4について、業者は黄色セルを記載することになると思うが、このセルは仕様書に書いてある数値を入れるだけなのか、メーカーの特性を踏まえた内容を入れることになるのか。
- 後者の内容を入れる形になるが、差が出にくい。
- 最終的に、VFMが5.29というところで、6%に満たない数値であることから、維持管理期間の人件費によっては削減できないということも考えられる。ライフサイクルコストがVFMの6%よりもより下がるという画期的な提案も可能とするほうがよいと考える。
- PFI事業として、前向きな提案は検討していきたい。

- 性能審査について、A～Eの5段階で採点することだが、AとBの差がはっきりしない。また総合評価は、各委員の評価点の平均を採用することであるが、検討違いの外れた評価も含まれてしまうことが懸念される。
- 採点されたのちに、ディスカッションをするかどうか。また、他の委員と違う評価があった場合、どのような理由で評価されたかをご説明いただく機会を設けるかどうかであるが、事務局としてはどう想定しているか。
- ◎事務局としては、事業者より提案書が提出されたら、各委員で仮評価をしていただ

き、仮評価をとりまとめた結果を第3回委員会で議論し、その議論結果を踏まえて、評価内容を各委員で修正していただく。その結果をもって、第4回委員会にて事業者ヒアリングを実施し、最終的な評価をしていただくことを想定する。

- 採点者によってはベースを何点にするかが異なると考える。全体的に高い配点の人と全体的に低い配点の人がでてくることが考えられるため、中央が何点なのかは決めたほうがよいのではないか。
- ◎事業者から提案が提出されたのち、各提案について、評価項目ごとの提案概要を作成し、その提案内容ごとに評価（☆等）をお示しすることを想定する。また、各委員で評価の差が大きい箇所については、色付けするなどし、第3回委員会で協議いただけるようお示しする予定である。
- 委員ごとに、ばらつきがあるにしても、委員の皆さんが各項目を理解したうえで、採点していただけるよう議論していただきたいと考える。
- 「評価の視点」（通し番号 p.20-22）において、1（2）「事業実施体制の妥当性」の3点目と1（4）「リスクへの適切な対応」はどのように区別して評価をすればよいか。1（7）「その他」について、出前講座などが想定されるが、学校空調整備事業においてやってもらいたいこととは意味合いが違うのではないか。また、3（5）「事業終了時の考え方」について、どのようなことを事業終了後に事業者へ求めるのか。
- ◎1（2）と（4）の評価の違いについて、まずは評価箇所として、（2）は様式6-3、（4）は様式6-5に記載の内容を評価することになる。
- 事業者もどこで何をアピールしたらよいかのわかりにくいのではないか。
- 「評価の視点」の下に、詳細な評価軸等は作成しないのか。
- ◎詳細な評価軸等の作成は想定していないが、個別の対話を設定するため、そこで確認することは予定している。
- ◎不測の事態については、故障したときにどのような対応が可能なのかという視点を想定している。
- 事業者側がそれを提案できるように示す必要があると考える。
- 個別対話でお示しすることも有効かと思うが、質問があった企業にだけ回答するのでは公平性が保たれない。
- ◎業者から質問が合った内容は、質問と回答を公表し、条件は公平とする想定であるが、その前に評価視点は修正を検討する。
- 1（7）は、「児童・生徒の環境教育等に有益となるような創意工夫」を求めているのか。
- ◎SDGsの取り組みや、消費エネルギー量の使用量の見える化などを想定している。
- 1（6）「環境負荷への配慮」に含めることも考えられるのか。
- 1（7）「その他」は、15点の配点があるが、1（3）「安定的な事業継続性の確保」と同じ配点でよいのか疑問である。
- 1（7）が1（6）に組み込めるのであれば、1（3）にも配点を振り分けることも考えられる。
- ◎3（5）事業終了時の考え方については、事業終了後に市が維持管理を行う可能性

もあるため、情報等をスムーズに引き継げるようにしてもらうことを想定している。
○そうであれば、「ノウハウ等の引継ぎにおける具体的な配慮ができているか」などが書かれるとよい。

議事3 入札説明書について

(意見)

○通し番号 p.36 の(4)ア及びイについて、「入札参加者の構成企業又は協力企業のうち、1ないし複数企業が参加資格を喪失した場合は、」とあるが、「複数社でもよい」のか「構成企業なら1、協力企業なら複数」のか表現が曖昧である。

○通し番号 p.37 (3)「イ 特許権等」について、「ただし、市が、工事材料、施工方法、維持管理方法等を指定した場合で、設計図書等に特許権等の対象である旨が明示されておらず、入札参加者が特許権等の対象であることを過失なくして知らなかった場合には、市が費用を負担する。」とあるが、市が費用負担することについて、事業者に争われる余地が出てくる可能性があり、市に不利になることが懸念される。

○「協議するものとする」という文言に修正するのか、検討していただくこととする、

○その他、気づきがあれば事務局へご連絡いただくこととする。

◎次回委員会は、8月下旬を予定している。

審議の結果

議事1 特定事業の選定は、事務局にて公表手続きを行う。

議事2 落札者決定基準は審議内容を踏まえ修正の上、事務局にて公表手続きを行う。

議事3 入札説明書は審議内容を踏まえ修正の上、事務局にて公表手続きを行う。

6 会議資料の名称 特定事業の選定、落札者決定基準、入札説明書、PFI等審査委員会開催及び事業スケジュール(予定)、モニタリング基本計画書(案)、基本協定書(案)、事業契約書(案)

7 発言内容記録方法 文字 / 録画 / 録音

8 会議録署名人 奥宮正哉 奥家章夫